

日刊 勤労千葉

81.3.1
No. 673

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(電話)二九三五～六・公衆電話(三三)七二〇七

明日、歴史的ストライキに突入する

成田・佐倉倉を軸に 全支支部は総決起せよ！

全組合員のみなさん。われわれは、明日零時を期して三里塚空港ジェット燃料貨車輸送延長阻止・八〇年代日本労働運動の未来を切り拓くべく歴史的ストライキへ意気揚々と突入しようではないか。わが勤労千葉の階級的正義と強力な団結、組織力をもってするたたかいは、助役機関士線見阻止一週間闘争を勝利的に貫徹した。しかも決定的なことは、わが勤労千葉の「助役機関士線見阻止一週間闘争を勝利的に貫徹した。しかも決定的なことは、せす」とのあらゆる事態を想定した万全のスト準備体制によって追い詰められた国鉄当局は、新聞報道によると、二月二十七日夕刻、三月二～三日助役機関士スト破り導入を断念することを弱々しく「発表」したという。全組合員のみなさん。このようにわが勤労千葉へのあらゆる弾圧・敵対をはねかえした、たたかひの爆発は、結戦において勝利的に前進している。一時たりとも気を緩めず勝利を確信し完全にストライキを貫徹しよう。

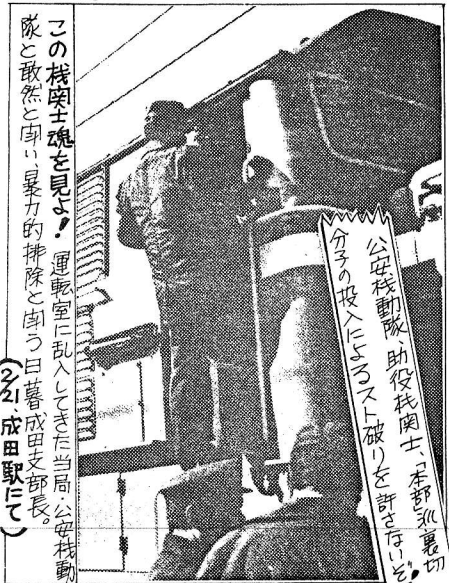
スト圧殺攻撃にはスト貫徹でこたえよ

われわれは、労働者が団結し、本気になって立ち上ったときどんな力を発揮するのか、この三月決戦ストライキ突入の全過程で見せつけてやらねばならない。

まさに反動共を労働者のストライキの前に戦りつせしめよ！ この一点に集中させることである。すでにわれわれのたたかひは、この労働者の底力を十二分に発揮し、権力・国鉄当局をして戦りつせしめている。それはあれほどまでの超弾圧体制をしき、動労「本部」反動分子の裏切りをも利用し、国鉄史上初の暴挙乗務中の機関士を暴力的に引きずり下すということまでして助役機関士線見訓練を強行し、三月前にして動労千葉ストライキを圧殺せんとした、国鉄当局の攻撃を、その根幹において粉碎しきつたことである。

助役機関士線見阻止闘争の日をおつてのたたかひの高揚は、二月二十一日、日暮・大須賀両機関士への暴挙に怒りを一挙に倍加させ、大衆的燃えあがりをつくり出し、権力・当局を追い詰めたのである。その結果が「動労千葉のストライキで一本の列車も止めさせない」という助役機関士のスト破り導入策動を、スト突入前にして先制的に打ち砕いたのである。

だがしかし、われわれは、はっきりと見据えておかねばならないことは、権力・当局がこの三月決戦ストライキのもつ階級的意義とその波及力が確実に全国でたかやう労働者に伝播することをもつとも恐怖するがゆえに、さらにストライキ圧殺策動を強めてくるということである。したがってスト圧殺攻撃には整然かつ戦闘的スト貫徹をもって権力・当局を戦りつせしめることである。



この機関士魂を見よ。運転室に乱入してきた当局公安隊、隊を散らし、暴力的排除と叫ぶ日暮成田支部長。(2)成田駅にて

鉄路に動輪旗を翻せ

三月決戦ストライキは、八一年～八三年過程の鈴木反動内閣が進める軍事大国化、改憲攻撃を粉碎するたたかひであり、三里塚二期工事阻止の突破口をきりひらくたたかひである。そしてなによりも、八〇年代日本労働運動の戦闘的転換をもちとり、動労大改革を実現するたたかひである。

見よ、国労・動労「本部」は三月闘争前にして「ジェット延長」に合意し、翌日、三十五万人体制合理化の柱である「車掌二千八削減」を受け入れるに至っている。しかも、検修一万人合理化に對しなびひとつとして闘う方針を出しえていないのが現状である。

この否定すべき現状にあって、国労・動労下部労働者がたかやう力をもちたかやう方針を求めて大きく活性化し流動化している。

われわれは、この国労・動労の下部労働者の進むべき道をさし示し、新たな国鉄労働運動の高揚をつくり出すために、その先頭にたつて三月決戦ストライキをうち抜こう。

鉄路に真紅の動輪旗を堂々と翻しストライキに意気軒こうとして突入しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ